

# Mobify HELP

## Konf リファレンス

<http://www.mobify.com/mobifyjs/docs/konf-reference/>

\$(selector)

{<konf} ...

{/konf} ブロック内では、\$は Zeptoオブジェクトをリファレンスします。そのコンテキストは、ソース文書にバインドされています。

DOM

### 普通の DOMとの違い

ソース DOM内では、リソースのフェッチを引起こす要素に属性名には x-#が付いています。

### タグ 接頭辞の属性

img src, width, height

iframe src

Script scr, type

Link href

Style media

インダリングのために、すべての接頭辞は img[x-width]、img[x-height]を除いて削除されます。

### OUTPUTHTML

konf

で特殊なキである。それに割り当てられ文字列はすべて、ページの出力してすぐにインダリングされます。このような理由から、それは常に konfオブジェクトの最後のキとして宣言する必要があります。

# Mobify HELP

false値が OUTPUTHTMLに割り当てられている場合は、元のページをリンクされます。

## Context.data(key)

以前に割り当てられたキーの値を返します。 `konf`  
は、上から順に判定されているので、以前に割り当てられたキーの値にアクセスすることは可能です。例えば、  
Footerのために作られたセッションを `Content`のために再利用したいと思うかもしれません。

これで Footerに、 `Content`キーの値が代入されます。

## 可変解像度

`context.data`  
は最近のレベルで一致するキーを返します。もしキーが現在の層で検出されない場合は、親の層に上がり、  
再試行します。

デフォルトでは、プロジェクトの `tmpl/フォルダ`内の全ての `.tmpl`ファイルは `context.tmpl`が利用できます。

一般的なパターンは `konf`の中のキーにテンプレート名を割り当て、後で `context.data`  
でそれを調べることです。テンプレート名はその後 `context.tmpl`に入れ、 `OUTPUTHTML`  
で出力で出来るようになります。

これは `TemplateName`キーに値 `"home"`を割り当てます。 `context.data`は値を探し出したら `context.tmpl`に渡し、  
`context.tmpl`が一致するテンプレートを見つけ、それをリンクします。その結果がブラウザへの出力です！

## Context.choose(obj1[,obj2[, ...]])

# Mobify HELP

引数としてオブジェクトの可変数を引け入れること、最初に一致したものを実行します。現在インダリングされているページに基づいて特定の選択を行うのに使えます。

全ての必要なキー ( ! から始まるキー ) が引数と一致するのであれば、 `truthy` な値に判定される。

この例では、 `!home` に割り当てられている機能が `truthy` 値と判定された場合には、最初の引数が一致します。そうでない場合は、次の引数をテストされることになります。

必要なキーを持たない引数は常に一致します。

一致する引数が検出されなかった場合、 `context.choose` は `undefined` をリターンします。

複数の必須を作成して `"and"` 条件を作れます。

この場合は、 `productCarousel`、 `saleItems` の両方 `truthy` でなければ引数にマッチしません。

`konfi` における一般的なパターンは、 `context.choose` を使用してテンプレートの特定のコンテンツを選択し、後でテンプレート名として使用されるキーを割り当てることです：

**必修** ショップの Truthy 度、! 接頭辞の付いたキー

`context.choose` は、次の条件のいずれかに一致する場合 `truthy` 値を判断します。

# Mobify HELP

これらの条件のどれか当てはまらない場合の値は `false`とみなされます。

## 必要なセッションで DOMを変更しないでください

全ての引数内の必要なキ-を判定することができます。引数が一致した時のみ、必須でないキ-が判定されます。もし `DOM`が必要なキ-で変更された場合、`konf`の判定に影響を及ぼす可能性あり、後でエラーのデバッグする際、困難に繋がります。必要なキ-で変更しないでください。 `DOM`の変更作業は必須はないキ-で行なってください。

DOM

## Mobify.urlmatch()で URLをマッチング

Mobify.jsは、URLのパス部分のパターンに基づいて組み合わせを作る種方法として `()`関数を提供しています。

Mobify.urlmatch

引数の `path expression`、または `JavaScript RegExp`オブジェクトを含む文字列として受け取り、`window.location.pathname`に対する表現に一致する関数を返します。

`window.location.pathname`

返された関数は引数を持たず、それが一致していたら正規表現オブジェクトを返し、それ以外の場合は `false`を返します。

false

もっと詳しく参照したい場合 [Mathcing Templates to URLs](#)を御覧ください。

## 既定キ-

次の既定キ-を含むデフォルト `konf`によって拡張されます：

# Mobify HELP

!\_match

テンプレート一致関数            Mobify Studioで使われる

\_url

テンプレートのプロトタイプページ            URL、 Mobiy Studioで使われる

\$html

ソース    DOMの <html>要素へのリファレンス

\$head

ソース    DOMの <head>要素へのリファレンス

buildDate

mobify.jsファイルが制作された日

config.configDir

Mobify.jsがロードされた場所までのディレクトリパス

Config.configFile

Mobify.jsへのパス

Config.HD

デバイスが高密度ディスプレイを持っている場合は            trueになるフラグ

Config.isDebug

# Mobify HELP

Mobify.jsがデバッグモードを起動している時に

trueになるフラグ

Config.orientation

横より高かったら” portrait”、縦より長かったら” landscape”なる文字列

Config.os

完治した OS文字列を表す

Config.path

mobify.jsファイルがロードされた場所からのパスを表す文字列

config.started

ページが適応されているかどうかを記録するために使用する内部フラグ

config.tagVersion

このサイトで使用されている Mobifyタグのバージョン

config.touch

タッチイベントがサポートされている場合は true、それ以外の場合は falseになるフラグ

configName

project.jsonから持つプロパティ。大抵の場合あなたのサイトの特有の識別子

cssName

# Mobify HELP

適用する CSSファイルの名前を返す 関数

imageDir

Mobifyのアダプティブ特定の画像が保存されている場所へのパスを返す 関数

mobileViewport

メタビューポートタグの内容が送信される

siteConfig

アナリティクスの設定情報を格納しているオブジェクト

touchIcon

iOSデバイス上でこのウェブサイトのブックマークアイコンとして使用するファイルの場所

unmobify

ページが unmobifiedされているかどうかを記録するために使用する内部フラグ

お勧め:

特定のページにテンプレートを割り当てるときは、単一のセクタを避け、より完全な  
アウトラインを行なってください

DOM

必要なセクタでソース DOMを変更しないでください

一意的なソリューション ID: #1158

製作者: umemori

最終更新: 2013-03-24 04:20